

平成18年2月学術講習会

(社)日本鍼灸師会
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 650 回
(2006.2.26)

演題および講師

プライマリ・ケア疾患編

・「花粉症」

病態と治療

日本医科大学 耳鼻咽喉科学教室 助教授 大久保 公裕

鍼灸治療編

・「花粉症と中医学的治療」

中医学的理論と治療の実際 (+ 耳鍼治療)

(社)埼玉県鍼灸師会 副会長 河原 保裕

「花粉症」

病態と治療

大久保 公裕

花粉症の症状

スギ花粉症の方はスギ花粉に特異的な IgE 抗体を持っています。花粉の飛散する2月から5月にこの IgE が溶けだしたスギ花粉の抗原成分を捕らえて結合してアレルギーの細胞を活性化し、反応を生じます。細胞から放出されたヒスタミンという化学物質が鼻粘膜表面の神経を刺激し、くしゃみを起こし反射的に鼻汁の分泌を生じさせます。さらにヒスタミンは血管を刺激して鼻づまりの症状を引き起こします。繰り返しスギ花粉との接触が多くなると、花粉症の症状は強まりま

す。結膜でも同じようにヒスタミンが放出され、神経を介して痒みを生じさせ、反射性に涙の分泌が増えて異物感が強くなります。またスギ花粉によりこれら鼻症状、目の結膜症状の他にも全身倦怠感、微熱、頭痛など多岐にわたる症状を起こさせるのが花粉症です。

花粉シーズン中の対策

ご自分でできるセルフケアとしてはもちろんマスク、めがねで原因の花粉を少しでも体の中に入れないようにする努力が必要です。花粉症用のマスクでは花粉が約 1/6、花粉症用のめがねでは 1/4 程度に減少することが分かっています。全く症状をなくすことは不可能ですが、少しでも症状を軽くすることができると思います。鼻粘膜の状態を良くするように、悪化の因子であるストレス、睡眠不足、飲みすぎなどを抑えることも必要です。軽い運動などは花粉防御をしたうえでは推奨されると思われます。

スギ花粉症治療の現状

スギ花粉症は症状が一定の期間しかないために薬による治療が主体になります。その中でも予測された花粉飛散開始日より 2 週間前から第二世代抗ヒスタミン薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬などの投与を行うと季節初期の症状が良く抑えられることが確認されています。現在の治療形態の主流は経口アレルギー治療薬と局所ステロイド点鼻薬、局所抗アレルギー点眼薬の組み合わせです。

スギ花粉症治療にはスギに対する感受性を低下させる減感作療法という治療法もあります。注射で行い、徐々にスギ花粉エキスの量を増加させることにより体がスギ花粉になれるようにする治療法です。しかし花粉飛散の直前からは行うことが難しい根治的な治療法で、年限もかかります。重症の場合、一度お医者さんと相談するのが良いかもしれません。

アレルギー性鼻炎の主として鼻閉の改善に手術的治療法があります。粘膜を焼いて凝固させる方法と粘膜を切除する方法です。通常、花粉症に対しては多くは凝固法が用いられています。凝固に用いるのはレーザーが一般的で、日帰り手術として行われています。

「花粉症と中医学的治療」

中医学的理論と治療の実際（+耳鍼治療）

河原 保裕

花粉症は、アレルギー性鼻炎の中でも季節性があり、花粉によって引き起こされる気道および眼のカタル性病変で、Ⅰ型アレルギー性疾患に属する。

花粉症の主症状は、水様性鼻汁・鼻粘膜の浮腫によって起こる鼻閉・くしゃみ・鼻の搔痒・結膜の発赤と搔痒・眼の乾燥・流涙などで、さらに結膜炎症状・眼瞼浮腫・軽度の頭痛や頭重・全身倦怠・易疲労・冷え・顔面のほてりなどを呈することもあり、ときに呼吸器系疾患や皮膚症状を訴えることもある。

中医学的に花粉症を考えると、風・寒・湿・熱・燥・？滞といった邪気や病理産物が関与し、臓腑としては津液代謝に関わる肺・脾・腎や気の疏泄に関わる肝が関与していると考えられる。暴飲暴食・冷飲・冷え・過労・睡眠不足・ストレスなどの生活習慣が、肺・脾・腎の機能低下という虚証の素体を作り出し、肝の疏泄機能の失調（気滞）が実証の素体を作り出して、花粉症を発症させやすい環境（素体）を作ることになるのである。これらの素体は、花粉症の季節、もしくは吸入性抗原の花粉を吸引した時にだけ発症し、普段は発症寸前の状態で保たれている未病の状態であることが多い。様々な要因が重ね合わさった時に、症状の場である肺に影響を与え、花粉症（宣発肅降の失調）を発症させると考えられる。

花粉症の治療には、本治と標治の考え方が不可欠である。実際に花粉症の季節になり、花粉症を発症してからは標治を中心とした症状の改善が目的となる。また発症の時期でない時に、しっかりと本治を施し、未病の状態になっている素体の改善を図ることが、来季の発症を未然に防ぐことにつながると考える。

この時期（花粉症発症期）は標治の考えに基づき症状の改善を目的として、宣肺肅降・通竅止涕を中心に治療を組み立てることが重要であり、さらに耳鍼治療を併用することにより持続的効果を期待することが出来る。